

【欠落文問題】

後の文章には次の一文が抜けています。元の位置に戻し、直後の五字を抜き出して書きなさい。  
さらに南の方、コンゴ王国に行つて見ると、「絹やびろうど」の着物を着た住民があふれるほど住んでいる。

中世の末にヨーロッパの航海者たちが初めてアフリカの西海岸や東海岸を訪れたときには、彼らはそこに驚くべく立派な文化を見いだしたのであった。当時のカピタンたちの語るところによると、初めてギネア湾にはいつてワイダあたりで上陸した時には、彼らは全く驚かされた。注意深く設計された街道が、幾マイルも幾マイルも切れ目なく街路樹に包まれている。一日じゅう歩いて行つても、立派な畑に覆われた土地のみが続き、住民たちは土産の織物で作った華やかな衣服をまとっている。そうして大きい、よく組織された国家の、すみずみまで行き届いた秩序があり、権力の強い支配者があり、豊富な産業がある。骨までも文化が徹とおっている。東海岸の国土、たとえばモザンビクの海岸においても状態は同じであった。

和辻哲郎「アフリカの文化」

答え

そうして大

【要約問題】

次の文章を六十文字以内で要約しなさい。

形が崩れた加工食品や賞味期限切れの食品、家庭や飲食店での食べ残しなど、本来はまだ食べられるのに廃棄されてしまう食品を食品ロスといい、深刻な社会問題となっている。農林水産省の推計によれば、日本の一年間の食品ロスは、家庭系約291万トン、事業系約352万トン、合計約643万トンで、これは、世界中で飢餓に苦しむ人々への世界の食糧援助量の約1.1倍に相当する。世界中で多くの人が飢餓で苦しむ一方で、日本では大量の食品が余り、廃棄されているのが実態だ。

日本では特に、食品の鮮度や品質が厳しく求められる傾向にあるようだ。それは、形が悪く規格外品の野菜が販売されずに捨てられてしまうことや、いわゆる「3分の1ルール」という商慣習にも表れている。3分の1ルールとは、食品の製造日から賞味期限までの日数の3分の1を経過する日を「納品期限」、3分の2を経過する日を「販売期限」とするルールで、他の先進諸国の納品期限が2分の1から4分の3であることと比べても非常に短いことがわかる。たとえば賞味期限が6か月の食品の場合、製造から2か月後までに納品し、4か月後には販売期限を迎えるので、賞味期限まで2か月あっても店は当該商品を廃棄しなければならない。最近では、このルールには合理的な根拠がなく食品の無駄につながるのではないかと指摘されている。

国や自治体でも、食品ロス削減のための様々な取り組みがされるようになった。たとえば農林水産省は、本来は規格外品として廃棄される食品を福祉施設などへ無償で提供するフードバンクという活動を実施している。また、京都市が市内のスーパーで一部の食品を賞味期限ぎりぎりまで販売する社会実験を行ったところ、食品ロスが10%ほど減少し、売り上げも上がったという。こうしたことから、消費者の中には、規格外品や賞味期限直前の食品を食べることに抵抗がなく、むしろ捨てるのはもったいないと感じている人も多いのではないかと考えられる。事業者側のルールがやや過剰である可能性もあり、規格外品の扱いや流通のルールについては見直しを検討されるべきだろう。

一方で、食品ロス643万トンのうち半分近くは家庭からの廃棄によるものであり、私たち消費者の意識を変えていくことも重要だ。家庭で食品を購入するときは、買い過ぎず適量を購入する。店頭では賞味期限が近い商品から選ぶ。こうした小さな行動の積み重ねが、食品ロス削減につながるのではないだろうか。

答え

食品ロスを削減するために、事業者は規格外品の扱いや流通のルールを見直し、私たち消費者は意識を変えていくことが重要だ。

【資料2】

資料2-1 6歳未満の子供を持つ夫・妻の家事関連時間の推移（平成8～28年）  
夫婦と子供の世帯（時間、分）

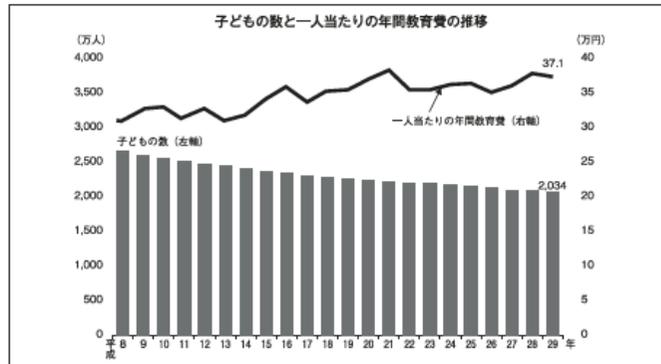
	夫					妻				
	平成8年	平成13年	平成18年	平成23年	平成28年	平成8年	平成13年	平成18年	平成23年	平成28年
家事関連	0.38	0.48	1.00	1.07	1.23	7.38	7.41	7.27	7.41	7.34
家事	0.05	0.07	0.10	0.12	0.17	4.08	3.53	3.35	3.35	3.07
介護・看護	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.03	0.03	0.03	0.03	0.06
育児	0.18	0.25	0.33	0.39	0.49	2.43	3.03	3.09	3.22	3.45
買い物	0.14	0.15	0.16	0.16	0.16	0.44	0.42	0.40	0.41	0.36

資料2-2 6歳未満の子供のいる夫・妻の家事関連時間（日本、アメリカ）（平成23、28年）  
（時間、分）

	平成23年				平成28年			
	日本		アメリカ		日本		アメリカ	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
家事関連時間	1.07	7.41	3.16	5.37	1.23	7.34	3.25	6.01
うち育児	0.39	3.22	1.08	2.08	0.49	3.45	1.20	2.18
調査年月	2011.10		2011.1～2011.12		2016.10		2016.1～2016.12	

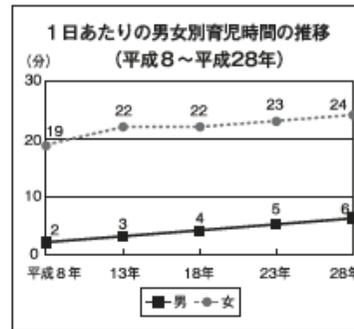
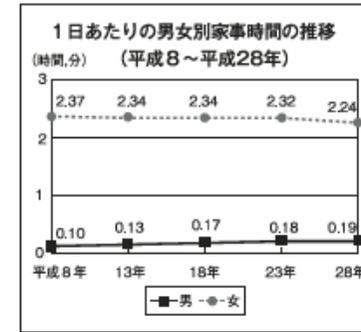
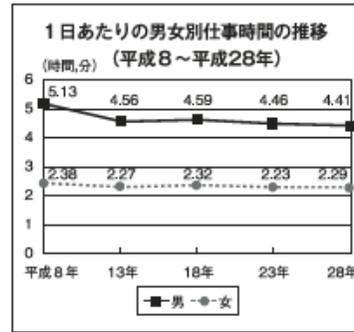
平成28年社会生活基本調査 総務省 統計局

【資料3】



(注)「子どもの数」は、0～18歳の人数。  
(出所)「家計調査」「人口推計」「住民基本台帳」(総務省)より作成。

【資料1】



平成28年社会生活基本調査  
総務省 統計局  
(回答者10歳以上の男女約20万人)

【資料問題】  
資料を見て次の問題に答えなさい。

第一問 資料1は、一日の生活時間を調べたものである。男女を比較しながら、この資料から読み取れることを九十字以内で書きなさい。

第二問 資料2は、資料1にあった家事および育児時間の推移を六歳未満の子どもを持つ夫婦と子どもの世帯に限定したもので、次の文章はこの資料から読み取れることをまとめたものである。(ア) (イ) (オ) に当てはまる言葉または数字を答えなさい。

妻が家事関連に費やす時間は、平成八年と平成二十八年とで大きな変化は見られないが、その内訳を見ると、家事に費やす時間は約一時間減っていることがわかる。また、(ア)に費やす時間もわずかながら減っている。

一方、(イ) にかける時間は一時間以上増えており、平成二十八年には(イ)にかける時間が(ウ)を上回っている。

また、夫が家事関連に費やす時間は平成八年に比べ平成二十八年では約(エ) 倍になっているが、同時期のアメリカでの調査結果と比べると約(オ) 時間短いことがわかる。

第三問 資料3は子どもの数と一人あたりの年間教育費の推移である。資料2と3を見て、育児はどのような傾向にあると考えられるか。百〜百二十字で答えなさい。

答え

第一問 平成8年から平成28の間で、男性の仕事時間は減り、家事や育児の時間は増えている。一方で、女性の仕事時間はほとんど変化がないが、家事の時間が減り、育児の時間が増えている。

第二問 ア 買い物 イ 育児 ウ 家事 エ 3 4 2

第三問 資料2からは、育児にかける時間が増えていること、資料3からは、子どもの数は減少しているが、一人あたりの年間教育費に増加していることがわかる。このことから、一人の子どもに時間をかけて育て、十分な教育を受けさせようとする傾向にあると考えられる。